

イスラームとインターネット

山本 達也 (清泉女子大学)

1. アラブ世界とインターネットとの出会い

- ・イスラームの発祥の地であり、文化的中心地であるアラブ世界
- ・1990年代中頃に、政府主導のもと相次いでインターネットを導入
- ・一般的に普及するのは2000年以降（この後急速に普及）
- ・「グローバル派」の次世代リーダーへの政権交代の時期と呼応
⇒それぞれのケース：ヨルダン、シリア、UAE、エジプト……

2. インターネットへのムスリムたちの反応

- ・肯定派と否定派
- ・「不健全」な交遊を可能とするメディアという意味での懸念
- ・歴史的に見て、イスラームは決して新しいものを拒絶するということではない
- ・インターネットを積極的に取り入れようとするイスラーム知識人の台頭
- ・今では、インターネットは生活の一部に（イスラーム圏は何が違って、何が同じなのか？）

3. インターネット・コントロールとイスラーム

- ・「独裁者のジレンマ」(dictator's dilemma) 命題への政策的回答としてのインターネット・コントロール政策
 - グローバル化した国際経済で経済的利益を最大化したい
 - 一般民衆がエンパワー (empower) されることによる政治的リスクを最小化したい
- ・国際的人権団体や欧米政府などは、人権概念 (freedom of speech) に基づく批判を展開
- ・社会のイスラーム的価値観を守るための「守護者」としての政府という論理
(意外と多くのムスリムがこの種の考え方を許容している側面も。イスラーム法学者の中にも、容認派と否定派が入り交じる。)
⇒他のインターネット・コントロール国とアラブ・イスラーム圏との土壌の違い
⇒どのレベルで規制をかけるのかという論争・教育がより重要だとする主張
- ・ソーシャルメディア以前と以後、「アラブの春」以前と以後での政府 vs. 民衆

4. 「宗教改革」を誘発するツールとしてのインターネット？

- ・インターネット初期の牽引役としてのイスラーム・サイトの存在
⇒例としてのイスラーム・オンライン (Islam Online)
- ・サイバースペースに持ち込まれたスンナ派とシーア派の確執
- ・3つのレベルのイスラーム (①教えのレベル、②現実のレベル、③報道のレベル)

- ・「内なるイスラーム復興」を誘発するメディアとしてのインターネット
- ・「オンライン・ファトワ（法学裁定）」の存在
- ・デジタル化によってクルアーンやハディースの「検索」が容易に
- ・金曜説教にアクセスする物理的な壁を乗り越えるインターネット
⇒イスラームの宗教的権威の重心移動か？
(特定の組織や機関・伝統的な宗教指導者 → 新興宗教指導者・各個人)

5. グローバル・ジハード思想とインターネット

- ・「テロ」のオペレーションを助けるツールとしてのインターネット
⇒9・11のアル=カーイダ
- ・メディア戦略ツール（および思想の拡散ツール）としてのインターネット
 - 「過激派」にとって、ほぼ唯一の思想拡散ツールだったインターネット
 - 掲示板の有効活用
 - 映像の効果
- ・リクルート活動のツールとしてのインターネット
⇒イスラーム国以前とイスラーム国以後の性質の違い？

6. インターネット時代における「イスラームの家」の未来

- ・ダール・アル=イスラーム（イスラームの家）とダール・アル=ハルブ（戦争の家）
- ・サイバースペースにおけるムスリムのつながり
 - 物理的なイスラームの家の存在とその外に住むムスリムたちとのリンクを助けるツールとしてのインターネット
 - サイバースペースでのイスラームの家およびウンマ・イスラーミーヤ（イスラーム共同体）は成立し得るのか???
- ・リアルスペースとサイバースペースとの交錯がもたらすもの